

## 「卓越大学院プログラム」中間評価結果

|          |                   |               |        |
|----------|-------------------|---------------|--------|
| 機関名      | 東北大学              | 整理番号          | 1901   |
| プログラム名称  | 変動地球共生学卓越大学院プログラム |               |        |
| プログラム責任者 | 山口 昌弘             | プログラムコーディネーター | 中村 美千彦 |

### (評価決定後公表)

#### (総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

#### [コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、東北大学は大学院改革を全学の最重要案件の一つと捉えており、大学のマネジメントを中心として強力に推進している。本卓越大学院プログラムは、大学が重視している4つの柱の一つとなる防災関係のプログラムであり、卓越した大学院プログラムとして確立させていることは高く評価できる。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、防災分野で国際貢献できる人材を育成する本プログラムに対する期待は大きい。しかし、本プログラムが掲げる「スノークリスタル型人才」は抽象的であり、プログラムが対象とする範囲が広いことと相俟って、修了後のキャリア展望を具体的に抱きにくくなっていることが危惧される。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、I-ラボ研修やメンター制度は学生からも高く評価されている。プログラム学生の定例会議やランチミーティングは、「仲間から学ぶ」機会として有効であるため、学生の積極的な参加を促す方策を進めていただきたい。また、多様な出身分野の学生が他分野の知識を修得する上で、「学融合科目群」の科目編成・難易度設定や連携先企業の事業分野の構成、学生のリーダーシップ発揮の機会提供などに関して、一層の拡充が期待される。

優秀な学生の獲得については、学振特別研究員数、国際学術誌掲載数、国際学会発表数、研究成果受賞数などのKPIが期待以上であり、優秀な学生が獲得されていると考えられる。ただし、M1の充足率など、改善を要する点も見られる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、QE1およびQE2の評価結果が学生にフィードバックされるなど、透明性を高めていることは評価される。ただし、審査委員に学外機関や海外機関からの参加を確保することなどについては改善の余地がある。

事業の継続・発展については、補助期間終了後の令和 8 年以降のプログラム運営を維持するために、共同・受託研究収入等をいっそう拡大することが期待される。